

耐震ラッチ  
開き扉

1

パーフェクトロックシリーズ  
PFR®-TSA

〈製品名〉

- PFR®-TSA  
(開き扉用耐震ラッチ)


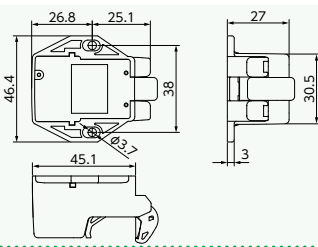

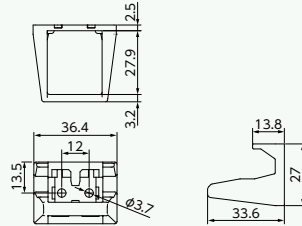

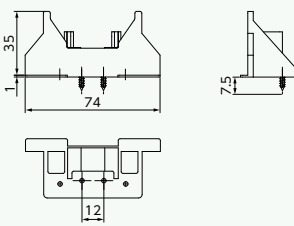
〈製品スペック〉

- 後付けタイプ
- サイレントタイプ
- ラッチ受け自動調整タイプ

〈仕様〉

- 1扉に1セット
- 本体は天板、ラッチ受けは扉にねじ止め
- 地震時自動ロック、平常時自動ロック解除

● 金具仕様一覧

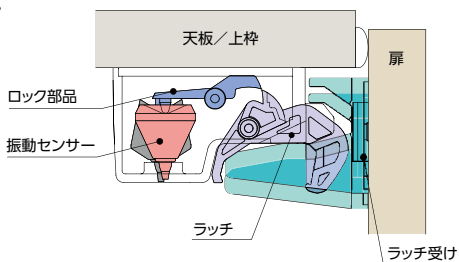
品名	使用金具	製品寸法図	用途・材質・処理・色
PFR®-TSA 本体 52210201A			● 吊り戸や家具の天板に φ3.5バインドタッピングねじ又は、φ3.5 ナベタッピングねじで2箇所固定する [材質/処理/色] 各種プラスチック/ □ アイボリー 亜鉛ダイカスト
PFR®-TSA 可動ラッチ受け 52210301B			● 扉の裏面にφ3.5バインドタッピングねじ 又は、φ3.5ナベタッピングねじで2箇所 固定する(下穴加工必要) [材質/処理/色] スチール/三価クロメート PA66 / □ アイボリー
PFR®-TSA 施工治具ASSY 5220032			● 本体に嵌合させて、本体とラッチ受けの 位置出しをする際に使用する [材質/処理/色] POM / ■ 黒 スチール/ニッケルメッキ

● 特徴

通常の状態(振動なし)

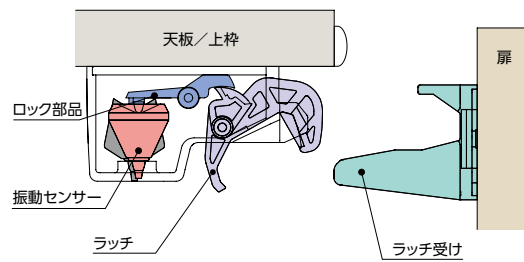
■ 扉閉じ状態

扉を完全に閉めるとこの状態になります。通常の状態では扉の開閉に伴い、ラッチが上下します。また、ラッチ受けは、正しく作動するよう、自己調整します。



■ 扉開き状態

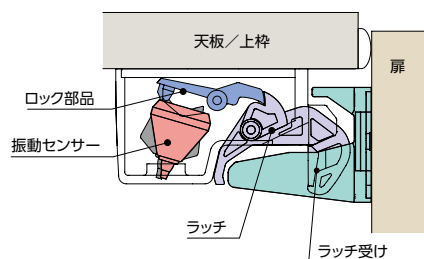
ロック部品がラッチに嵌合していないため、ラッチの先端が上昇しています。下図は扉が開いている状態であり、扉が閉じる前の待機状態です。



地震発生時(振動あり)

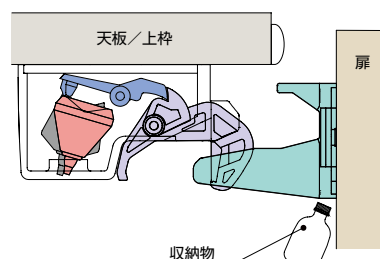
■ 扉閉じ状態

振動により振動センサーが揺動することにより、ロック部品が回転しラッチにロックを掛け、扉が開かなくなります。振動が止むと解除操作を行うことなく振動センサーが元の位置に戻り、扉開閉が通常通り行えます。



■ 扉開き状態

大きな振動の場合、扉に収納物等が寄りかかったままの状態が発生します。この状態ではロック部品とラッチがロックされておりますので収納物は落下しません。この場合でも、若干開いている扉を押すことによりロックを解除することができます。

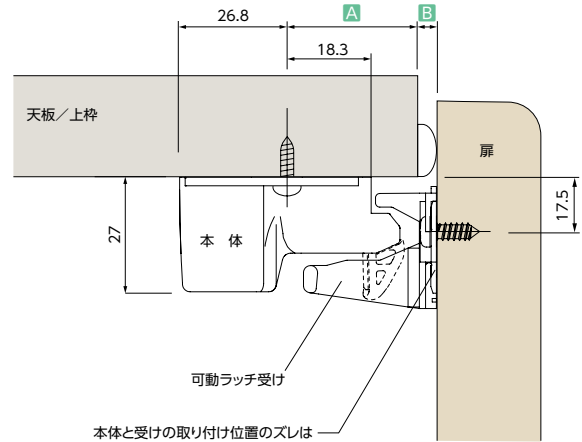
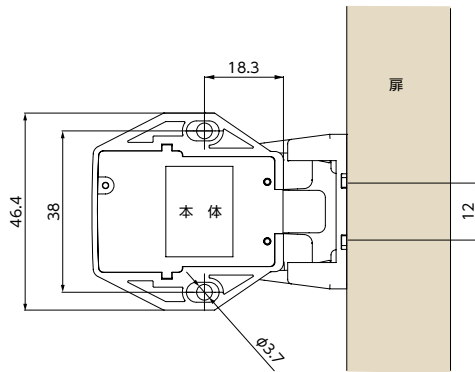


## ● 取り付け寸法図

〈固定ねじ〉  
本体 / 受け: φ3.5 バインドタッピングねじ又は、  
φ3.5 ナベタッピングねじ

$$A + B = 33.5 \pm 0.5$$

B は扉側のクッションや収納側のパッキンの厚みです。  
扉側のクッションや収納側のパッキンが無い場合は、B=0にしてください。

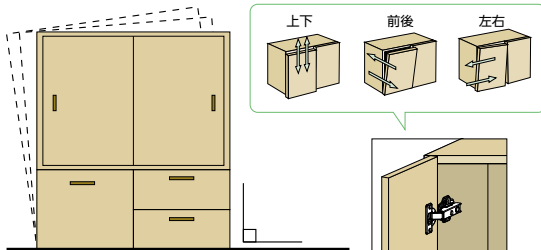


本体と受けの取り付け位置のスレは  
左右±0.5mm以内にしてください。

※可動ラッチ受けの樹脂部は、一番下に下げた状態にしてください。

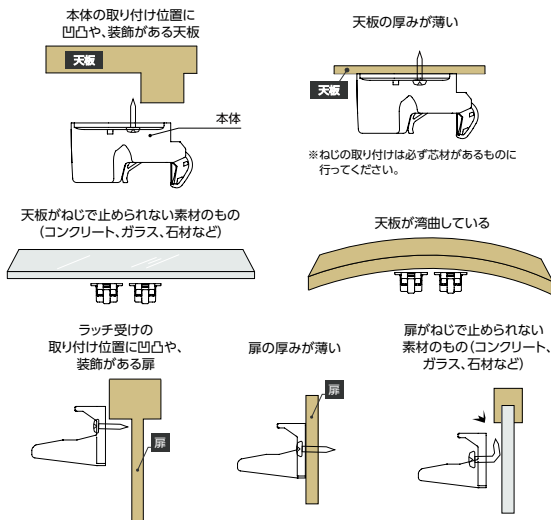
## ● 取り付け施工条件

**条件1** 取り付ける家具・建具が水平であること。スライドヒンジが調整済みであること。



**条件2** 扉・キャビネットのねじ止め部分は木製であること。(ガラス製・金属製などには取り付けられません)

**取り付けられない条件** 以下の条件では使用できません。



**条件3** スライドヒンジは、キャッチ (パネ) 付を使用してください。

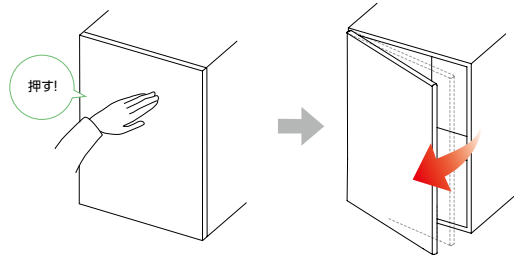
※「プッシュオープンタイプの扉」等使用できない条件があります。

スライドヒンジのキャッチ (パネ) 付とは：  
スライドヒンジの中にパネが内蔵され、扉が閉まる手前  
(当社スライドヒンジは約20°手前)で、自動的に扉を閉める力が働く機能のことです。



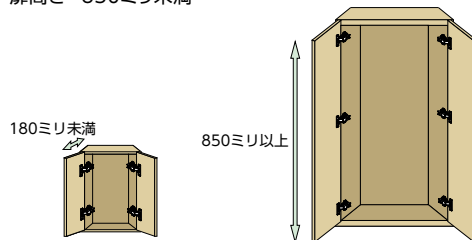
**取り付けられない条件** プッシュオープンタイプの扉には使用できません。

プッシュオープンとは：扉を押すと扉が開く機能です。



**条件4** 推奨の扉サイズ

扉幅=180ミリ以上 (ラッチ位置が戸先にあることを条件とする)  
扉高さ=850ミリ未満



※上記の条件と異なる場合は、お問い合わせください。

**条件5** 可動ラッチ受けのねじ下穴：

下穴径φ2~2.5mm、下穴深さ5~10mm

⚠ 23ページを必ずお読みください。

上記および23ページの内容を無視して誤った取り扱いをすると、事故の原因となります。